

湘南医療大学 ティーチング・ポートフォリオ

大学名 湘南医療大学

所属 保健医療学部リハビリテーション学科

名前 大村優慈

作成日 2025 年 4 月 24 日

1. 教育の責任

湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻において、以下の必修科目を担当している。

- 1年次： 理学療法教養基礎、見学実習
- 2年次： 神経系検査測定学、運動学演習
- 3年次： 義肢装具学Ⅱ、神経系理学療法学、神経系理学療法学演習、クリニカルリーズニング論、理学療法特論Ⅰ、理学療法研究法演習、地域リハビリテーション実習、評価学実習
- 4年次： 理学療法卒業研究、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、チーム医療論

このうち、神経系検査測定学、義肢装具学Ⅱ、神経系理学療法学、神経系理学療法学演習の4科目については科目責任者として、各15回の授業を計画・実施している。その他の科目はオムニバス形式で、他の教員と協働して担当している。

また、3年次の「日常生活活動学演習」や「老年期理学療法学」の実技演習では補助的指導を行い、脳血管障害領域の国家試験対策講義も受け持っている。

学科内では、2年生チューターリーダー、教務委員、6S委員、IRワーキンググループ、国家試験対策委員としても活動している。

2. 教育理念とその背景

教育理念

理学療法士を養成する大学教員として、次の4点を信条としている。

1. 学生に対して敬意をもって接する
2. 学生の興味や意欲を尊重する
3. 自ら学ぶ力を育む支援を行う
4. 現時点の課題で将来性を見誤らない

単なる知識・技術の伝達ではなく、学生が主体的に学び、成長し続ける基盤を形成することを目指す。そのため、発問・調べ学習・グループワークなど、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。

背景

過去の教え子の中には、在学中は成績が芳しくなかったものの、卒後に著しい成長を遂げ、大学教員や病院の部長として活躍する者もいる。こうした経験から、「目の前の成績や態度だけで学生の将来を決めつけてはならない」という信念を持つに至った。

学生は未熟であることが前提であり、それゆえに成長の余地が大きい。その可能性に、本人以上に期待を寄せて指導する姿勢が、私の教育スタンスである。

3. 教育方法と実践戦略

臨床で求められる知識・技能を「実感を伴って理解できる」よう、以下の工夫を重ねている。

主な実践例

- **体験を通じた理解：**
杖・装具・車いすなどを実際に操作し、身体感覚を通じて学ぶ。正誤の方法を体験的に比較し、違いを自身の言葉で表現するよう促している。
- **グループワークの導入：**
模擬症例をもとに情報収集・思考・協議・発表・相互討議を行う形式を採用している。
- **わかりやすいスライド：**
フォントは20pt以上、写真・図版を多用し、視認性に配慮した設計をしている。
- **レジュメの穴埋め形式：**
重要語句を穴埋めにすることで集中力と参加意識を向上させている。

- **小テストの活用：**
緊張感を保ちつつ、自身の理解度を客観的に把握できる機会として、科目責任者を務める科目の全てにおいて実施している。
- **カラーマーカーによる脳画像演習：**
MRI 画像に神経構造を描き込む演習を行い、視覚と運動による統合的理解を促進している。
- **休暇課題の提示：**
3 年次夏期には神経機能解剖に関する課題を提示し、後期授業との接続性を高めている。
- **成績評価の工夫：**
知識・技能に加え、ルール遵守・積極性など医療人としての姿勢も評価に反映させている。

4. 学習成果と課題認識

2023 年度の授業評価において：

- **義肢装具学Ⅱ：**
熱意（4.81）、コミュニケーション（4.57）などが学科平均を上回った。
- **神経系理学療法学演習：**
熱意（4.87）、教え方（4.65）が高評価を得た一方で、学生の**意欲・理解・環境**に関する項目は平均をやや下回った。

課題と対応方針

学修意欲の面ではさらなる工夫が必要であると認識しており、「この内容が理学療法士にとっていかに重要か」を伝える説明力の向上に努めていく。

5. 改善のための取り組み

1. 専門性・教育力の向上：

教育学や教育方法論も含めた文献学習、学会参加、研究活動、他機関との交流を通じて、継続的な自己研鑽を図っている。

2. 学生との対話の機会拡充：

授業外の面談・行事などでの交流を通じて信頼関係を深め、学習動機の向上を目指している。

3. 授業評価を踏まえた改善：

評価結果を真摯に受け止め、授業設計や教え方の工夫を毎年見直している。

6. 今後の目標

● 短期目標：

科目責任者を務める4科目において、すべての評価項目で学科平均を上回る授業評価を得る。

● 長期目標：

「中枢神経系の理学療法をもっと学びたい」と学生から言ってもらえる教員となり、将来的にこの分野を牽引する人材を本学から輩出すること。